

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	姪良市		地区名	東餅田地区			面積	166ha		
交付期間	平成19年度～23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	2,167.3	国費率	40%				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(菅原線整備、宮島線整備、菅原線2整備)、公園(松原1号公園整備、松原2号公園整備、松原3号公園整備)										
		提案事業	下水道整備事業、建昌踏切撤去事業、公園整備住民ワークショップ										
			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	空き店舗活用事業、地元の農水産物朝市、都市計画変更に伴う調査(宮島線)(菅原線)、コミュニティ形成事業				空き店舗活用事業:事業実施の必要がなくなったことによる削除。地元の農水産物朝市:同種施設が機能を果たしていることによる事業の削除。都市計画変更に伴う調査(宮島線)(菅原線):宮島線と菅原線を併せて調査をすることによる削除。コミュニティ形成事業:関連事業の遅れに伴うスケジュールの変更。			空き店舗活用事業・地元の農水産物朝市・コミュニティ形成事業:指標3「コミュニティ形成事業の参加者数」に関連するが、数値目標は据え置く。都市計画変更に伴う調査(宮島線・菅原線):影響なし。			
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	都市計画変更に伴う調査(宮島線・菅原線)				都市計画変更に伴う調査(宮島線・菅原線):宮島線と菅原線を同時に調査をすることによる追加			影響なし				
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	東餅田地区の定住人口	人	6,105	H18年3月末	7,000	H24年3月末	-	6,748	△	あり なし	生活基盤整備等によって魅力ある住宅地の形成が図られてきているが、関連事業の遅れにより一部基盤整備が遅れ、目標達成には至らなかった。	平成24年4月頃
	指標2	日豊本線帖佐駅の乗降客数	人/日	2,770	H17	3,100	H23	-	2,509	×	あり なし	幹線道路整備や踏切整備によって、交通拠点までのアクセス性が向上する効果はあったが、目標達成には至らなかった。	平成24年7月頃
	指標3	コミュニティ形成事業の参加者数	人/年	1,800	H18	2,500	H23	-	2,700	○	あり なし	地区内居住者の増加に加えて、多様な住民交流に配慮したイベントの実施により、目標値を上回る参加者数が得られた。	平成24年7月頃
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	住環境に対する満足度の向上	点	0	H18	/	/	-	1.34	/	/	住環境向上のための基盤整備に加えて、公園整備ワークショップの実施により、住民・行政協働のまちづくりが図られており、満足度を向上させることができた。	平成24年7月頃
	その他の数値指標2	'まち'の交通基盤に対する満足度の向上	点	0	H18	/	/	-	0.80	/	/	歩行者の安全性に配慮した交通基盤・歩行者ネットワークの形成によって、住民の満足度を向上させることができた。	平成24年7月頃
4)定性的な効果発現状況	地区内の小学校と連携して、標識や横断歩道の位置等を検討・実施することによって、安全な通学路の確保が図られてきている。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		
	住民参加プロセス	・地区内の街区公園整備において、整備・施設内容や活用方法を地区住民と検討するワークショップの実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後は、住民・行政協働での街区公園管理等の検討を図る。	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		

様式2-2 地区の概要

東餅田地区(鹿児島県始良市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
始良市の中心拠点として、暮らし豊かな都市生活を創出する賑わいと潤いのあるまちづくり ・中心市街地にふさわしい骨格となる交通基盤の整備。 ・豊かな都市生活を創出する良好な生活基盤と住環境の整備。 ・生活者の参加と交流によるコミュニティの形成と賑わいの創出。	東餅田地区の定住人口	単位: 人 6,105 H18年3月末	7,000 H24年3月末	6,748 H23
	帖佐駅の乗降客数	単位: 人/日 2,770 H17	3,100 H23	2,509 H23
	コミュニティ形成事業参加者数	単位: 人/年 1,800 H18	2,500 H23	2,700 H23
	住環境に対する満足度の向上	単位: 点 0 H18		1.34 H23
	'まち'の交通基盤に対する満足度の向上	単位: 点 0 H18		0.80 H23

■ 基幹事業: 都市計画道路宮島線整備



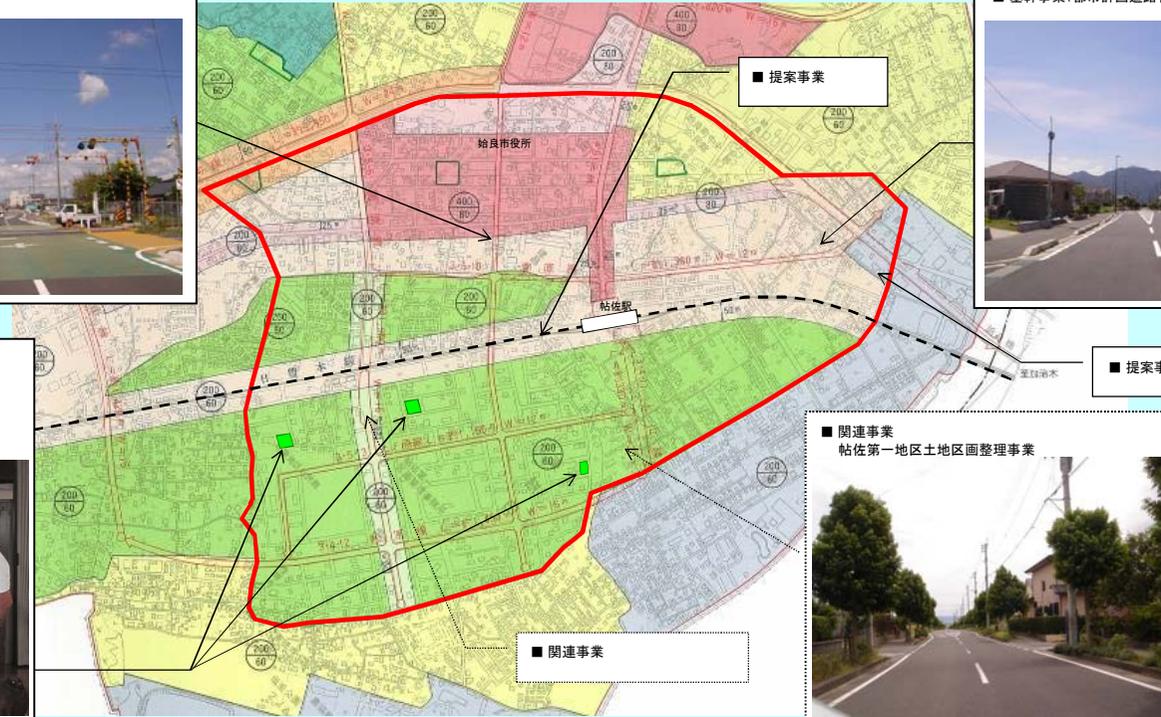
■ 基幹事業: 都市計画道路菅原線整備



■ 基幹事業

■ 提案事業

○ 住民と協働のまちづくり



■ 関連事業
帖佐第一地区土地区画整理事業



まちの課題の変化

・交通拠点である帖佐駅までのアクセス性を高める幹線道路整備や踏切整備により、中心市街地としての歩行者ネットワーク・交通基盤が創出されてきている。それに加えて、安全性が確保された歩行者空間や交通拠点へのアクセス性に対する地域住民の満足度も高まってきている。しかし、安全で快適な道路ネットワークという点で不可欠な都市計画道路菅原線の一部区間が未整備という課題が残った。また、交通拠点帖佐駅の乗降客数という点では、平成18年度以降から継続的に市全体人口が減少している等の影響によって、減少傾向を食い止めることはできたものの、当初目標としていた乗降客数には達していない。

・歩行者の安全性を確保するための踏切整備や幹線道路整備、住環境の向上を図る下水路整備等によって住宅地としての魅力が向上してきている。それに加えて、住環境向上につながる公園整備を住民・行政協働で計画・検討していること等により、地域住民の定住意欲も高まってきている。しかし、関連事業(土地区画整理事業等)の遅れに伴い一部住環境基盤の創出に遅れが生じた等の影響により、当初目標としていた定住人口数には達していない。

・地区内の街区公園整備について、住民・行政協働で計画・検討した結果、住民満足度が高い地域コミュニティの形成を図れる場が創出できた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・交通基盤に対する地域住民の満足度が低下しないように、事業効果の継続に努める。

・まちの中心地として、より面的に魅力のある空間の創出を目指す。

・本事業による活性化基盤を活用した、更なる地域コミュニティと賑わいの創出を図る。

・安全で快適な道路・歩行空間ネットワークの更なる形成を図る。

・創出している良好な住宅基盤において、定住人口増加を図る。